ザンビアに暮らしてみて

青年海外協力隊平成 25 年度 3 次隊

理科教育　峰元貴久

ザンビアの首都ルサカから北へ 400Km の距離にある田舎町セレンジェ、私はこの街の高校で青年海外協力隊員として化学と生物を指導しています。ルサカのきれいなショッピングモールや舗装された道路に比べてセレンジェは、かやぶき屋根の家が立ち並び、牛車がゆったりと歩いている、のどかな風景が広がっています。電気や水道の無い家も多く、いかに日本が恵まれた環境であるかが身に染みて感じられます。

長いようで短かったセレンジェでの生活も残りわずかとなりセレンジェを離れることに寂しさを感じています。金銭的な面では日本と比べ貧しいザンビアですが、心の豊かさでは日本人よりもはるかに豊かな心を持っているザンビア人。そんなザンビアの人々と激しく怒り、激しく笑い、激しく楽しむ、喜怒哀楽に富んだ 2 年間を過ごさせてもらいました。

そんな厳しく楽しいザンビアの生活を紹介します。

ザンビアの学校

ザンビアの学校は朝 7 時から始まります。とは言っても、ザンビアンタイムでの 7 時です。7 時頃にちらほら生徒がやってきます。7 時から 10 時 15 分まで休み時間を挟まず、ぶっ続けで 5 コマ授業があります。赴任当初は休み時間がなくて生徒たちは大変そうだなと思っていましたが、先生が来ずに授業がつぶれることが多くあるので、その時間に生徒たちは休憩したりトイレに行ったりしています。ザンビアの日常に即した無駄の無いよくできた時間割だなと、今では感心させられています。

10 時 15 分から 20 分間の休み時間があります。その時間に生徒たちは購買部で朝食を食べたりして、お腹を満たします。休み時間後は 13 時 15 分まで再び休みなしで授業ですが、こちらも先生が来ないことが多々あります・・・・

学校は生徒に対して教室が少なく、生徒がすし詰め状態で授業を受けています。クラスの名簿を見ると一クラスに 80 人ほどの生徒がいます。どう生徒を詰め込んでも 4-50 人が限界の教室でどうやって授業をするのかと心配になりますが、生徒が全員出席することはなく、毎回違う生徒が欠席したり遅刻したりするので、不思議と学校は上手く回っています。しかし、試験期間中は生徒がほぼ全員出席するので、大変です。クラスを二つに分けるなどして工夫しながらテストを行っています。

授業は先生が板書をして、それを子供たちがノートに書き写すスタイルが中心です。授業に実験や活動の時間を取り入れることができればいいのですが、生徒の数が多いことと視聴覚教材が不足しているこ

と、教師のモチベーションが低いこと等、様々な理由から難しいのが現実です。しかし、そんな環境の中でもやる気のある生徒は放課後に残って先生に質問したり、試験の過去問を手に入れたりして勉強しています。また、一部の先生たちもそんな生徒に応えようとプリントを使った補助教材を作ったり、授業中に実験や作業を取り入れたりと工夫をしています。

学校行事も多く行われています。1 学期はスポーツ大会、2 学期は球技大会、3 学期は卒業試験が主な行事です。スポーツ大会や球技大会でいい成績を残した生徒は全国大会へと進むことが出来ます。

全国大会はルサカや大都市で行われるので、生徒たちはルサカに行って大きなショッピングモールやスーパーマーケットを見てみることを楽しみにしています。他にも近隣の学校同士で科学クラブの大会やディベート大会、サッカーの試合等も行われ、盛り上がっています。

放課後はクラブ活動もあります。サッカー部、陸上部、科学部、ディベート部、合唱部、ダンス部など数多くのクラブが存在し、生徒たちは各々楽しんでいます。

ザンビアの食事

　ザンビアではメイズをこねて作ったシマが主食として食べられています。よくザンビアの友人に誘われてシマを食べに行くのですが、それぞれの家庭におふくろの味があり、各家庭で味や触感が異なるのが面白いです。

おかずは豆や菜っ葉が一般的です。お祝いの日や給料日にはウシやニワトリ、ヤギを絞めて食べます。絞めたてのニワトリは最高においしいです。写真の手に持っている肉はインパラの肉です。ごくまれにインパラの肉が手に入るのですが、いままで食べたどの肉よりもおいしかったです。豆も野菜も肉もすべてトマトと一緒に炒めます。塩と油もたっぷり使った濃い味がザンビアンスタイルです。そのためなのか、ザンビアの人々は血圧を非常に気にします。塩と油の取りすぎで高血圧な人が多いのでしょうか・・・・

停電の多いセレンジェではほとんどの家庭が七輪と炭を使って料理をしています。そのため炭をよく売りに来ます。25 kgの炭を買ってたったの 500 円です。我が家には電気調理があるのですが、炭火焼の肉と電気調理器で焼いた肉では、心なしか炭火焼の方がおいしいような気がします。

ザンビアの人々との生活

セレンジェには水道が無い家がほとんどなので井戸や給水所へ毎日水を汲みに行きます。水汲みは女性と子供の仕事です。乾季の終わりにはセレンジェの井戸はほとんど枯れてしまうので、給水所に行って 2-3 時間待つことも珍しくありません。みんなでお喋りをしながらおばちゃんたちがのんびり待っています。ザンビアに来て、井戸端会議の言葉の由来に納得しました。写真のバケツには 10L の水が入ります。それを両手に抱えて小学生くらいの男の子が家に帰っていきます。こうやってザンビアの子供たちはたくましくなっていくのだと実感しました。

ザンビアでは大人も子供もダンスとサッカーが大好きです。結婚式やイベントでは必ずダンスをしてみんなで盛り上がります。私もたまに同僚の先生たちとサッカーをしたり、結婚式に招待されたりしてダンスをしました。子供たちは学校が終わった後にみんなで集まってダンスをしたりサッカーをしたりして遊んでいます。ほとんどの子供たちはサッカーボールを買えるお金が無いので、ビニール袋を上手に丸めてボールを手作りしています。他にも女の子はゴム跳び、男の子はたこ揚げなどをしている姿もよく見られます。また、それと同じくらい日本の武道も人気があります。子供たちが学校の終わった後にやってくるので武道を教えて一緒に遊んだりしました。

協力隊員としての生活

ザンビアはビクトリアの滝が有名ですがそれ以外にもたくさんの観光地があります。休日や学校の長期休みを利用して多くの場所を訪れました。ザンビアには 70 以上の部族が生活しており、各地方で雰囲気や人々の性質が大きく異なるのも面白いです。

しかし、様々な地方に行けばいくほど、やっぱり自分の任地であるセレンジェが恋しくなるのが不思議です。南部州はトンガ語、ルサカ州はニャンジャ語、コッパーベルト州はベンバ語といったように地方によって言葉が異なり、よその州に行くとなかなかコミュニケーションがとりにくかったり、現地の人が何を言っているのか、分からなかったりするからかもしれません。

私の任地であるセレンジェはベンバ語ですが、ララ語が少し混じっているのでコッパーベルトのベンバ語とは少し異なります。そのような同じ言語でも方言のようにわずかに異なるところも面白く感じられます。

他の地方からセレンジェに帰ってきて、ララ語交じりのベンバ語でザンビアの友人たちと言葉を交わすとなぜがホッとして自分の場所に帰ってきたような気になります。

また、ザンビアには様々な国から多くのボランティアが派遣されており、彼らとバーベキューなどをして情報を交換し合ったり、ただただおしゃべりをしたりして余暇の時間を楽しんでいます。色々な国の人々の様々な価値観、考え方に触れられるとてもいい機会となっています。

最後に

この 2 年間は私にとって激動の 2 年間でした。毎日ザンビアに悩まされ、イライラし、歯がゆい思いも何度もしました。しかし、そんな私を笑わせて、励まして、勇気づけてくれたのもザンビアでした。ザンビアの人々の笑顔やフレンドリーで寛容なこころに何度も助けられました。そしてザンビアの豊かな自然、のどかな風景に何度も癒されました。私がどんなに追い込まれても最後の最後に助けてくれたのはザンビアの人々であったことは一生忘れないでしょう。

ザンビアにとってもこの 2 年間は激動の 2 年間だったように感じます。2014 年は独立 50 周年を迎え、お祝いムードの中大統領に突然の不幸が襲い、混乱の中で新大統領選が行われました。2015 年は急激なドル高クワチャ安に伴って物価の高騰が進み、現在も住民の生活を圧迫しています。

独立 50 年が過ぎ、ザンビアに降りかかった試練をザンビアの人々みんなで乗り越え、アフリカの中心となっていくような力強い国へと今後、発展していくことを願ってやみません。

Natotela saana saana saana ZAMBIA. And tukamonana pa someday.

(2015.11.30)